

懇親会の模様

(司会 : 22 期 森 恵利子)



司会を進める森さん



出演者と森さん

(山本主将 挨拶)

61 期で主将の山本球さんから創立 60 周年を迎えたことへの祝意、自分たちには創立当初のワンゲルがどのようなものであったかは想像もつかず今とは随分違った姿であったのではないかと思うことなどが話された。また、現在ワンゲルには毎年一定数以上の新入部員が続けて入部しており、それぞれに活発に活動して時代にあわせて成長を続けていますのでどうかご安心くださいといった旨があった。



挨拶をする 61 期 山本主将

(OB 会長 挨拶)

黒崎会長から現役の皆さんには是非 60 年に及ぶ OB の方々の熱意・情熱あるいは伝統を感じ取って戴いてこれからの活動に活かしてもらえればと思っている旨、さらに卒業後は OB として現役の活動を支えてもらいたい旨があった。

自分が生まれた年は昭和 33 年で、金大ワンゲル部が創部された年にあたり、深い縁を感じたことも話された。



挨拶をする黒崎 OB 会長

(西川 潮 新顧問挨拶・乾杯ご発声)

新顧問から自身も大学時代は北海道大学ワンダーフォーゲル部に属し山を楽しんでいたこと、大学院時代のニュージーランドでも登山をしたが、日本と違って一緒に食事を作って食べることがないことに驚いたことなどが話された。

ご挨拶の後に乾杯の発声を頂き、懇親会を開会した。



西川 新顧問の挨拶

乾杯の後、11期の青柳さんから、野沢温泉スキー合宿が開始以降、OBが42名、その家族が17名総勢59名で活動して20年の節目を迎えたこと、記念として冊子を制作したことが報告された。そして5万円をOB会60周年にあたり寄付をしたことも話された。

(現役からの報告)

2018年度の夏合宿5パーティの報告と山本主将から現在の危機管理・安全管理体制が報告された。

(遠征報告 60期 松山 諒佑)

この遠征に参加するにあたりOB会より25万円の支援を戴いたことの御礼、国際的に有名な花谷泰広さんという登山家を中心となって若い人にヒマラヤ遠征の機会を与えようということで今回が3回目となる未踏峰登頂に向けての登山を行った旨が説明された。

概要として4月10日から5月20日の40日間ネパールに滞在し、5月8日、未踏峰パンカールヒマール(6264m)に初登頂を果たしたが、その様子についてスライドを使って説明があった。



ヒマラヤキャンプについて説明する松山さん

この遠征では冒険する楽しさを感じるとともに知らない世界はまだまだあると感じ、その世界へのスタートに立った気持ちを述べられた。

この後OBの方々が近い期ごとにグループに別れ、壇上に上がり当時のエピソードや歌で盛り上がった。

(3~6期)

昭和33年5月24日土曜日午後1時 尾山食堂2階でワンダーフォーゲル部設立総会が開かれ、その発起人は、会津若松市出身の田村昭夫(3期)・鈴木兵一(3期)の2人であった。はじめは10人も集まればよいと考えていたそうだが、実際には47人も集まった。第1回目の山行は6月14日に小立野に集まり医王山に登りその後キャンプをしたとのこと。80歳を超えた田村さんは金沢大学南下軍のハッピーを着て元気な姿で来られていました。



ワンゲル部発起人 田村さん

(7~8期) 7期の沢田さんから立食パーティは75歳を過ぎた身にはきついとの言葉のあと、「愛染カツラ」をリクエストされ楽しく合唱が始まった。

(9~11期) ワンゲルに入って教えてもらったという「山の子」が歌われた。

(12~14期) 「白山の尾根」を辛い階段や高山植物のきれいな花を眺めながら登ったことを思い浮かべながら歌われた。

(15~16期) まだまだ気持ちは30代とのことで「蒙古彷徨の歌」を合唱。

(17~19期) 「北岳の歌」。コンダクターは渡辺さん。日本のワンダーフォーゲルについて書かれた本の中で金沢大学の山小屋であるベルクハイムが東京大学の小屋の後2番目にできた大学の山小屋であることが紹介される。

(20~22期) 「ライダーズインザスカイ」を歌う。

(23~24期) 「四高寮歌」を歌う。

(25期~) 「金沢大学校歌」を歌い盛り上がる。

最後に前田元顧問の閉会の挨拶と「森のうた」を合唱。そして名残惜しい中、60周年記念OB会懇親会も幕を閉じられ、気の合うグループごとにKKRホテルを後に・・・。